調節性内斜視例の性格特性についての検討

宮井恵美子・若山 暁 美

湖崎 裕子・松本富美子

(近畿大学医学部眼科学教室)

松 本 久 代

(豊川病院)

A Psychorological Study of the Patients of Accommodative Esotropia

Emiko MIYAI, Akemi WAKAYAMA, Hiroko KOSAKI,

and Fumiko MATSUMOTO

Department of Ophthalmology, Kinki University School of Medicine

Hisayo MATSUMOTO

Toyokawa General Hospital

I. はじめに

われわれは、日常臨床で斜視患児の検査や視能訓練を行うにあたり、斜視の種類により性格に特徴があるのではないかと印象を抱いていた。しかし眼科外来における児童の性格検査実施は難しく、具体的に性格を把握するに至っていない。そこで今回、調節性内斜視患児の性格特性を調べ、同程度の遠視がありながら内斜視にならない遠視群と比較検討してみた。

II. 対象と方法

近畿大学医学部眼科外来に視力不良あるいは眼位異常を主訴として来院し、眼科一般検査で明らかな器質的異常が認められなかった7歳～13歳までの調節性内斜視32例、同程度の遠視でありながら内斜視にならない遠視33例を対象とした。屈折値は $+1.75D \sim +9.5D$ であり、 $2D$ 以上の不同視は除いた。

性格検査には一般に広く利用されており、検査が簡便で被検者に負担の少ない、矢田部一吉

ルフォード性格検査(Y-Gテスト)と the Rosenzweig Picture-Frustration Study (P-F スタディ)を用いた(図1)。

Y-Gテストは、12尺度、小学生96項目、中学生120項目からなる質問紙形式の性格検査で、各質問に「はい」「いいえ」「？」で答える。結果は、神経質、強制的、活動的などの各尺度別に答えをまとめ、その得点によりタイプを判定する。P-Fスタディは、24の欲求不満場面からなる投影法検査で、各場面を誰もがごく普通に体験する比較的軽い欲求不満場面で統一し、それに対する被検者の反応を思ったとおりに書かせる。各場面の反応語が、どの方向に攻撃が向いているか、どのような型のものであるかを分類して、判定する。

各検査とも眼科外来で視能訓練士の監督のもとに行った。

III. 結 果

まずY-Gテストの結果からみると、遠視群、調節性内斜視群ともにB系(非行型)E系(ノイローゼ型)などの社会的に不適応で、情緒不安定な型は少なく、遠視群ではA系(平凡型)、調節性内斜視群ではC系(鎮静型)が多くみられた。C系は情緒的に安定し、社会的に適応している

連絡先 (〒589) 大阪府南河内郡狹山町西山380

Key words : Accommodative Esotropia Psychological Test

Y G 性格検査

(矢田部ギルフォード性格検査)
小学2年～6年生用

構成者 関西大学教員 辻 岡 英 雄
元奈良女子大学教員 安 藤 照 子
京都大学名誉教授 岡 原 太 郎

れん し ゅ う

(い) あなたは いつも ほがらかですか.....	はい いいえ	はいのとき いいえのとき
(ろ) あなたは 人のせわが すきですか.....	はい いいえ	はいのとき いいえのとき
(は) あなたは たのまれたことは すくやりますか.....	はい いいえ	はいのとき いいえのとき
(に) あなたは人の罪にでるのが ほがかしいですか.....	はい いいえ	はいのとき いいえのとき
(ほ) あなたは いつも げんきですか.....	はい いいえ	はいのとき いいえのとき
(へ) あなたは すくあわてる たちですか.....	はい いいえ	はいのとき いいえのとき

もんだい ①

- あなたは しらない^でと はなしをするときたくなりますか.....
- あなたは ほずかしがりやですか.....
- あなたは ようじん(ちゅうい)ぶかい たちですか.....
- あなたは どんどん しごとをかたづけますか.....
- あなたは ^で人といっしょに きわぐことがよくありますか.....
- あなたは 気が みじかしいですか.....
- あなたは ここからたよれるともだちが
すくないとおもいますか.....
- あなたは ときどき ぼかんと
していることがありますか.....
- あなたは ちょっとのこどもも 気をもみますか.....
- あなたは しつぱいしやしないかと いつもしんぱいしますか.....
- あなたは 気が かわりやすいですか.....
- あなたは ほんやり かんがえこむ^せが ありますか.....

①

( ) 小 学 校 年 組 番 男 女 な ま え ( )

P - F ス タ デ イ

(Resenzweig Picture Frustration Study 日本版)
児 童 用 (4才～14才)

姓 名 _____ 男 女 _____
年 月 日 _____ 年 級 _____
学 校 _____
学 年 _____

例

これから やりかたを せつめいしましょう。
ひだりの え をごらんさい。「あなたの
かいた え あまり じゃう ずでは ないね」と
おんえのひとが こどもに いっている
ところです。このこどもは どんなように
こたえるでしょうか。このこどもが こたえ
るとおもわれる ことばを あいてる は
こにかいてください。いちばん はじめに
おもいついた ことばを かいてください。
ページを めくると こんええ が1から割
まで ありますから このように あいて
る はこのなかにつづつと じぶんば
んに かきこんで ください。
そして できるだけ はやく かきなさい。

が、内向的で消極的なタイプである(表1, 2)。

次にP-Fスタディの結果をみていく。反応の分類は表3に示す通りである。被検者の各反応語がどの方向に攻撃をむけているか、どのような型のものかで11通りに分類される。結果は、全回答中、その反応にでた割合を各年齢毎の平均%で示している。反応の方向では、遠視群、調節性内斜視群のあいだに著しい差はみられなかったが、両群ともに、外部に対する攻撃欲求のE-A%(外罰的反応)が標準より低く、調節性内斜視群は遠視群よりも、欲求不満の原因を自分の責任に帰し、内部に対する攻撃欲求反応であるI-A%(内罰的反応)が高かった(表4)。

表1 Y-Gテスト プロフィールの5典型

典 型	因 子		
	情緒安定性	社会適応性	向 性
A型 Average Type	平 均	平 均	平 均
B型 Black List Type	不安定	不適応	外 向
C型 Calm Type	安 定	適 応	内 向
D型 Director Type	安 定	適応または平均	外 向
E型 Eccentric Type	不安定	不適応または平均	内 向

表2 Y-Gテスト プロフィール判定の結果

	A系 平凡型	B系 非行型	C系 鎮静型	D系 適応者型	E系 ノイローゼ型	合計
遠 視 群	13	2	9	6	3	33
調節性内斜視群	6	4	15	6	1	32

表3 P-Fスタディ 反応の分類

型 方 向	障害優位 (O-D)	自我防衛 (E-D)	要求固執 (N-P)
外 罰 (E-A)	(E')障害強調	(E) 攻 撃 (E) 責任否定	(e) 解決依存
内 罰 (I-A)	(I')障害合理化	(I) 自 責 (I) 責任回避	(i) 努 力
無 罰 (M-A)	(M')障害無視	(M) 容 認	(m) 習慣服従

表4 P-Fスタディ 反応の方向

	小2	小3-4	小5-6	中1-2
外罰 E-A%	57.2 43.0 (52.1)	36.0 37.8 (50.3)	42.2 31.7 (48.7)	35.4 36.0 (43.3)
内罰 I-A%	20.3 30.5 (23.8)	32.5 30.4 (24.1)	27.3 33.6 (25.3)	30.9 34.7 (26.4)
無罰 M-A%	23.0 25.5 (24.2)	32.1 31.6 (25.6)	30.8 23.6 (26.1)	33.7 30.3 (30.2)

上段：遠 視
下段：調節性内斜視
( )：標 準

反応の型では、両群にほとんど差はみられなかった(表5)。

平均値では、両群に著しい差はみられなかったが、標準偏差よりも高いもの、あるいは低いものの症例数をみた結果(表6)、両群ともI-A%(内罰反応)の高いものが多く、調節性内斜視群では、E-A%(外罰反応)の低いものが多かった。これは、調節性内斜視患児では、欲求不満の原因を他人や環境のせいにならず、自分の責任に帰し、後悔や罪の気持ちを抱きやすく、緊張の強いことをあらわす。

表5 P-Fスタディ 反応の型

	小2	小3-4	小5-6	中1-2
障害優位 O-D%	19.2 19.0 (19.6)	23.8 17.7 (18.4)	16.7 15.6 (19.4)	15.6 25.0 (19.6)
自我防衛 E-D%	44.2 54.0 (50.1)	47.3 49.9 (53.3)	52.2 55.4 (52.3)	47.9 48.0 (50.6)
要求固執 N-P%	36.6 27.4 (30.3)	26.2 32.6 (28.1)	31.1 24.8 (28.4)	37.1 27.3 (29.8)

上段：遠 視
下段：調節性内斜視
( )：標 準

表6 P-Fスタディ 反応の分類

遠 視 群	外 罰 (E-A)	内 罰 (I-A)	無 罰 (M-A)	障害優位 (O-D)	自我防衛 (E-D)	要求固執 (N-P)
標準値をこえて 高いもの	6	8	8	10	3	9
標準値をこえて 低いもの	13	1	4	7	6	6

調節性内斜視群

調節性内斜視群	外 罰 (E-A)	内 罰 (I-A)	無 罰 (M-A)	障害優位 (O-D)	自我防衛 (E-D)	要求固執 (N-P)
標準値をこえて 高いもの	1	14	6	1	4	7
標準値をこえて 低いもの	12	1	1	4	4	4

以上の結果をグラフに表現したものが、図2, 3で、調節性内斜視群では、反応の方向が、外罰反応が低く、内罰反応は高いという結果になった。

他者から非難、詰問されて、いわゆる超自我(良心)が阻害された場面では、自己弁解の反応が出て来る。調節性内斜視群の超自我因子をみると、自我を主張したり素朴な攻撃性をあらわすE+I%, E-E%が低く、I-I%が高かった(図4)。これは自我を主張し自分を積極的に守ることができない事を示し、その意味では社会性の発達がおくれていることをあらわす。

P-Fスタディ 反応の方向

図2 標準値を100とした場合の各平均値の比率

P-Fスタディ 反応の型

図3 標準値を100とした場合の各平均値の比率

P-Fスタディ 超自我因子

図4 標準値を100とした場合の各平均値の比率
 E+I%：精神発達，社会性の発達を示す指標
 E-I%：素朴な攻撃傾向を示す指標
 I-I%：自責，自己非難の気持ちの強さを示す指標

次にテストを受ける心構えに変化があったり作為がある場合，反応が一定せずに変化していく。それにより情緒の安定性，欲求不満耐性をみようとするのが反応の転移である。転移数では調節性内斜視群，遠視群に差はみられなかった。しかし，調節性内斜視群では検査の当初E反応(人や物に対する直接的な攻撃)にでていたのが，検査の後半にいくに従いE反応が少なくなり，M-A反応(攻撃を外にも内にも向けない無罰的反应)が多く出現する変化をみせた(表7)。これは，攻撃性を率直にだすことは良くないと考え，抑えようとするをあらわす。

表7 P-Fスタディ 反応の転移数

転移の方向	遠視群	調節性内斜視群
E(攻撃)から遠ざかるもの	3	9
E-A(外罰)から遠ざかるもの	3	6
M-A(無罰)に向かうもの	4	12

IV. 考 按

斜視の発生，進行に心理的因子あるいは，精神的ショックが影響してくることは，以前から指摘されており，内斜視は，緊張がつよく，反抗的で，神経質な小児におこりやすいと言われている。われわれも，日常の臨床の場において斜視患児の落ち着きのなさ，神経質さなどの性格特性をしばしば認める。しかし，性格をどのように把握するかという点には問題が多く，具体的な性格，行動に関する研究は少ない。

そこで今回の研究では，性格特性として認められる行動傾向や考え方が，ある個人において，どの程度自己認識され，かつ固定化しているかを見ようとするY-Gテストと，欲求不満に対して，個性を維持するためにあらわれる反応をみようとするP-Fスタディを用い，調節性内斜視患児の性格検査をおこない，同程度の遠視がありながら内斜視にならない遠視患児とのあいだに性格面での差があるかどうかを検討した。

一般に調節性内斜視は神経質で情緒的に不安定といわれているが、Y-Gテストの結果では、抑うつ性、劣等感、神経質などの各尺度の得点は低く、情緒的には安定し、社会的にも適応しており、活動的でなく内向的で消極的な傾向がでており、印象とは逆の結果となった。

P-Fスタディの反応では、自責、自己非難の気持ちが強く、素直な攻撃性をそのまま表明することを良くないと考えて、抑えようとする変化がみられ、緊張の強いことを示し、反応が外ではなく内にむかっている。これは、Y-Gテストの結果と共通するものと考えられた。

Y-Gテスト、P-Fスタディの結果、調節性内斜視患児、遠視患児ともに性格上際だった異常さはあらわれず、調節性内斜視患児の場合、積極性に欠け、内向的で、自分の感情を表現せずにおさえることで周囲に適応しようとする傾向があると考えられた。

今回の研究では、患児の性格を具体的に把握するにとどまり、性格的、心理的なものが斜視発生の原因となるか、あるいは結果となるかは、今後さらに検討が必要である。

性格検査の結果は、患児の性格の一面をあらわすものであるが、斜視患児および弱視患児の性格を具体的に知ることができ、われわれが日常臨床で視能訓練をおこなうにあたって、患児をより理解し、視能矯正の方法の選択や実施の参考になるものと思う。

V. ま と め

調節性内斜視患児、遠視患児に性格検査を行い次の結果を得た。

1. 調節性内斜視群、遠視群ともに性格の上で著しい異常性はみられなかった。
2. Y-Gテストの結果、調節性内斜視患児はC系が多く、情緒的に安定しており、社会的に適応しているが消極的で内向的であった。
3. P-Fスタディの結果、調節性内斜視患児は外部に攻撃を向けず、自責自己非難の気持ちが強く、自分を積極的に主張せずに感情を抑圧し

てしまい緊張の強いことがわかった。

4. 性格検査を用いることにより、患児の心理状態および性格を具体的に把握する事ができ、視能矯正の方法の選択、および実施の参考になると考えられる。

参考文献

- 1) Duke Elder, S. S.: System of Ophthalmology, 6 : 611, Henry Kimton, London, 1973.
- 2) 大川 忠, 杉山善郎他: 間欠性外斜視の研究第4報 性格特性について その1 人物画テストによる検討, 眼紀, 29: 336~341, 1978.
- 3) Adrienne Rona: Psychological Correlate of Accommodative Squint, Aus Orthopt J, 20: 5~11, 1983.
- 4) 亀井俊郎: 眼科と精神身体医学, 金原出版, 1971.
- 5) 植村泰夫: 小児の眼心身症について, 眼科, 9: 470~479, 1967.
- 6) 住田勝美, 林 勝造: 改訂版 PF スタディ使用手引, 三京房, 1973.
- 7) 矢田部順吉: Y-Gテストの臨床, 精神科 MOOK 10 心理検査法, 109~116, 金原出版, 1985.
- 8) 林 勝造: ローゼンツァイク P-Fスタディ, 精神科 MOOK 10 心理検査法, 77~88, 金原出版, 1985.

質問

(日大板橋病院) 福山千代美

1) Y-G性格検査を行なう場合質問項目が多く子供に行なうのは大変だと思いますが、一般的に使われているY-G検査で行ったのでしょうか。小児用Y-G検査があると聞いておりますがどちらを使われたのでしょうか。

2) P-Fスタディの様な投影式のものと答えがいろいろで検査結果の判定にかなり経験が必要と思われるのですが、検査の判定は専門の方がなさったのでしょうか。

一時バームテストを行なっていた事がありますが、判定のはっきりしたもの以外はその判定に検者の主観が入ってしまい正確な判定をしがたい様な感じがしておりますが……。

答弁

1. Y-Gテストは、児童の年齢に従い、小学生用のY-Gテストを使用いたしました。

2. テストの判定は、心理学の先生のアドバイスをいただき、各テストの手引書に従って行なえば問題はないとの事で、自分で手引書にそって行いました。